学内外で活躍――羽ばたく4年次生

佐竹教授と鈴木さん対談
デフリンピックへ意欲

東京都狛江市教育委員会が主催する狛江市スポーツ推進講演会（専修大学スポーツ研究所後援）が2月9日、狛江市役所で開かれた。佐竹弘靖ネットワーク情報学部教授（本学テニス部の鈴木梨子さん（文4）との対談が行われた。

デフテニスについて語る鈴木さん（左）と佐竹教授（右）

の講演と合わせて、11月の東京2025デフリンピックのテニス競技日本代表候補に内定しているが、選手は補聴器を外してプレーするため、試合は無音で行われる。佐竹教授が音が聞こえないことの難しさを聞くと、鈴木さんは「私の場合、普段から音を頼りにプレーしている感覚はないので変わらない。しかし、音がなくなると空中のボールの距離感がつかめなくなり、空振りすることがある」と答えた。

今後の目標について鈴木さんは「東京デフリンピックでメダルを獲得すること。テニスを続けてきて、たまたま私が難聴だったから挑戦する舞台をもらうことができた。全力を尽くし、お世話になった方々に結果で恩返ししたい」と述べた。

デフテニスのデフ（deaf）は、英語で聴覚障がいを指す。ルールは一般的なテニスと同じだ

人間科学部社会学科　3人が卒論報告

人間科学部社会学科の卒業論文報告会が1月30日、生田キャンパスで開かれ、4年次生3人が教員や後輩らの前で研究成果を発表した。

同学科では16のゼミごとに代表論文を選び、その中からさらに「文化・システム系」「生活・福祉系」「地域・エリアスタディーズ系」の3分野で代表論文を選出している。

多くの3年次生らが先輩の報告を熱心に聴講した

今年度は、長田和久さん（広瀬裕子ゼミ）、井原楓さん（小峰直史ゼミ）、杉崎羽紗さん（鷲埋恵子ゼミ）の論文が選ばれた。

3人は各自の論文を発表するとともに、これから卒業論文執筆に臨む後輩たちに向けて、「計画性が大事。まずは目的を明確にすると良い」（長田さん）などのアドバイスも送った。

第25回日経STOCKリーグ
商・渡邊隆彦ゼミ
郷田チーム入選

学生対象の金融・経済学習コンテスト「第25回日経STOCKリーグ」（日本経済新聞社主催）で、商学部・渡邊隆彦ゼミのチームが入選した。

メンバーは3年次生の郷田隆志さん、丹羽愛子さん、太田美蘭さん、2年次生の肥田祐紀さん、斉藤杏奈さんの5人。

日経STOCKリーグは、チームごとに独自の株式ポートフォリオ（金融商品の組み合わせ）を組んで投資シミュレーションを行い、レポートを提出する。今回は大学の部に127大学の715チームが参加し、46チームが入選した。

マーケット分析をテーマの渡邊隆彦ゼミからは、2・3年次生合同の4チームが参加。新紙幣発行を機に現金の必要性を考えた郷田さんチームは、投資テーマを「キャッシュレス決済」に決定し、投資銘柄15社を選定した。

神田キャンパス周辺でのフィールドワークの成果やバーチャル投資の結果、考察などをまとめたレポートを完成させた。丹羽さんが「みんなの力で納得するものを書き上げることができた」と振り返ると、郷田さんは「活動を通して社会を見る目が変わった。学んだことを就職活動などに生かしていきたい」と語った。

入選を喜ぶ5人。後列右から時計回りに斉藤さん、太田さん、郷田さん、丹羽さん、肥田さん

文・松原ゼミ 山本さん
TVF2025入賞

文学部ジャーナリズム学科・松原文枝ゼミで放送学を学ぶ山本華暖さん（3年次）が制作したドキュメンタリー作品が、東京ビデオフェスティバル2025（TVF）で入賞した。

入賞作『街が消滅する』の一場面

松原ゼミは、テレビ報道の分野で活躍する松原特任教授の指導で、身近な社会問題をテーマに映像作品を制作している。TVF入賞は4年連続。

山本さんの『街が消滅する』は、「消滅可能性自治体」がテーマ。「この問題を多くの人に知ってもらいたい」という思いから、父の故郷であり、人口の減少率が三重県内最大という南伊勢町でカメラを回した。

高齢化・過疎化が進む「町のリアル」を丹念に追う一方で、地域活性化に向けた行政の取り組みも積極的に伝えた。

企画から取材、編集まで、一人でこなした山本さん。ドローンによる空撮映像など、構成にもこだわった。約半年間の活動を振り返り、「直面している問題は深刻だが、風景の美しさやそこに暮らす人たちの温かさなど、その土地ならではの魅力に気づくことができたし、表現できたと思う」と手応えを感じている。

入賞した山本さん

かわさき映像制作展
近藤さん2年連続優秀賞

文・福冨ゼミ

文学部ジャーナリズム学科の福冨忠和プロジェクトの学生が制作した映像作品が、アマチュア映像コンテスト「第42回わが町かわさき映像創作展」（川崎市総合教育センター主催）で優秀賞を受賞し、2月15日、川崎市教育会館で表彰式・作品上映会が行われた。

福冨プロジェクトでは、横浜・川崎のケーブルテレビ局「YOUテレビ」で、街歩き学生情報バラエティー番組「かわスキ」を毎月制作、放映している。

近藤さん（右）と、番組制作に携わった塚本紘大さん（文3）

今回、優秀賞を受賞したのは「かわスキ」で6月に放送された『かわさき農園特集』。近藤夏実さん（3年次）がディレクターを務めた。川崎市の農園3カ所を訪れ、経営者や利用者にインタビュー。それぞれの特色や魅力を紹介した。近藤さんの作品は2年連続優秀賞受賞となった。

地域のPR映像を制作
文・応用実習

文学部ジャーナリズム学科2年次生の必修科目「応用実習」（福富忠和教授）では、映像制作の企画や技術を学び、地域PRのための映像づくりに取り組んできた。

受講生は川崎市幸区と川崎区の魅力を紹介する映像を制作。入賞作品の表彰式が、2月12日に両区役所で行われた。

幸区最優秀賞は、櫨元日向子さん、鈴木莉奈さん、高橋愛叶さん、駒田咲貴さんのチーム。川崎区最優秀賞は、室井万由子さん、菊地佳奈さん、櫻井菜々子さん、西條雪子さんのチームが選ばれた。

5大学合同 大学生意識調査プロジェクト

経営・石崎ゼミ
生成AIの利用実態調査

経営学部の石崎徹ゼミに所属する3年次生5人（土橋彩花、栗山さくら、川上彩音、矢野翔大、北河原愛花）が、公益社団法人東京広告協会が主催する「第30回大学生意識調査プロジェクトFUTURE2024」に参加した。

同プロジェクトは首都圏の5大学（青山学院、江戸川、駒澤、専修、千葉商科）で広告やマーケティングを学ぶ学生が集まり、企画・実施・分析を自ら行う。今回は大学生の情報利活用について調査し、生成AIとの向き合い方について実態を明らかにした。

昨年8月に全国の4年制大学に在籍する1～4年次生1000人を対象にアンケートを実施し、その結果を12月18日にプレス発表会で報告した。

大学生の59.0%が生成AIを利用しており、利用シーンとして「授業や課題でのAIツール活用」（18.1%）や「レポート作成や研究」（16.9%）が挙げられた。調査を通じて、デジタルネイティブ世代である大学生が、情報を精査し、適切に活用する能力を持っていることが示された。

活動に参加した5人と石崎教授（右端）

参加した学生は、「実践的な学びを得るとともに、他大学の学生との交流を深める貴重な機会となった」と話している。

（栗山さくら・経営3、文中敬称略）

お笑い芸人

二刀流 学生王者と勉強と
貫洞 伊織さん（人間科学）

お笑いコンビ「鯖のTシャツ」で「カンドウ」の名で活躍。2024年、二つの大きな学生お笑い賞を受賞した。

"二刀流"の大学生活を笑顔で振り返る貫洞さん

幼いころから人を笑わせるのが好きで、大学入学が決まると同時に本学落語研究会の門をたたいた。コンビ漫才やピンでの活動を経て、2年次の夏に早稲田大の大矢東吾さんと「鯖のTシャツ」を結成。以来、さまざまなライブや大会で腕を磨いてきた。

6月、ワタナベエンターテインメント主催の学生の大会「笑学祭」で初代王者に輝き、12月には学生お笑いバトル「ガチプロ2024」で450組の頂点に立った。「この世界で楽しく過ごしてきて、集大成の年に結果を出せたことは、自分の中でも一つの成果」と話す。

「鯖のTシャツ」は漫才もコントもこなす。ボケ、ツッコミの役割は固定せず、本番直前まで互いにネタを出し合い、スピード感のあるライブが魅力の一つだ。

3月までの1年間、渋谷区のコミュニティFMで1時間番組のパーソナリティも務めた。「ライブを見てくれた人からの感想も多く、思っていた以上にたくさんの人が応援してくれていると励みになった」と感謝を伝える。

「4年間、勉強もお笑いも、これしかないと決めて取り組んできた」という貫洞さん。1年次から公務員試験講座を受講。講座の出席が難しいときは会場近くのカフェでオンラインで受講し、本番へ。終演後にまた受講、ということも少なくなかった。4年次は、公務員採用試験、卒業論文とお笑いに同時並行で挑み、成果を上げた。

春からは県庁職員として働きながらコンビを続けていく。「社会人として経験を積み、新たな笑いを提供したい」。これまで支えてくれた学生お笑いファンだけでなく、いろいろな世代の人を楽しませること。それが貫洞さんの夢だ。

国際交流

メキシコ国費留学 夢描く
矢野 未来里さん（国コミュ）

矢野さんの手元には、カラフルな手描きの1枚の絵がある。富士山を背景に、民族衣装を着た女性が舞い、相撲や「死者の日」など、日本とメキシコの風習や文化が描かれている。2022～23年のメキシコ留学中に、現地で芸術を学ぶ学生3人と共同で描いた宝物だ。

矢野さんは外務省の日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画に専大生として初めて参加した。同研修計画は1971年から続く両国政府による研修生・留学生の交流プログラム。矢野さんがこの制度を知ったのは異文化コミュニケーション学科の海外研修でスペインに滞在中の22年夏。「スペインと同じ言語を使うメキシコでは、文化や習慣がどのように異なるか確かめたい」。すぐにスペインから外務省に応募書類を送った。

帰国から2次試験を経て合格の報を受け取り、メキシコ出発まで2カ月余。22年10月にはメキシコシティーに降り立った。

メキシコの学生と絵を描く矢野さん（左）

もともと絵を描くのが好きで、非言語コミュニケーションに関心があった矢野さんの留学の目標の一つは、メキシコ人と共同で絵を描くということ。協力を求め、メキシコ国立自治大学芸術学部へ。学生デモで門が封鎖されていたが何とか中に入り、通りがかった学生に声をかけ、3人の賛同者を得た。ジェスチャーや絵で両国の文化や風習について語り合いながら1枚のポスターを完成させた。「描くことを通じて互いに新しい知識を得られたこと、初めての日本人の友達と言ってもらったことに感動した」と振り返る。

現在はイタリア語の勉強も始めた。「メキシコでは家族ともいえる人々、大切な親友との出会いもあった。社会に出てからも世界中の人々と関わりを持てるよう、アンテナを張り続けていきたい」と笑顔で前を向く。

税理士試験

難関「5科目合格」を達成
山下 隼平さん（経営）

在学中に難関国家資格の税理士試験で「5科目合格」を果たした。

「困っている人を助けられる税理士に」と今後の目標を話す山下さん

税理士試験は、全11科目のうち会計2、税法3の合計五つに合格する必要がある。一度合格した科目は生涯有効のため、在学中に数科目を取り、残りは社会人になってから合格を目指す人が多い。在学中の5科目合格は非常に難しく、2024年度は2461人の大学生が受験し、5科目合格到達者はわずか4人。そのなかの一人が山下さんだ。

高校まではサッカーに打ち込み、勉強、特に数字に苦手意識があった。しかし1年次に履修した授業「会計入門」で簿記に興味を持ち、すぐに簿記3級を取得。その年の冬から本格的に税理士試験の学習を始めた。

定めた目標は「在学中の5科目合格」。困難な道と分かっていたが、「不安よりも挑戦意欲が上回った」。できるだけ多くの学習時間を確保するため、資格予備校の通信講座を活用。大学の授業もこなしながら、1日6～7時間、直前期は10時間以上を試験対策にあてた。勉強漬けの生活を続けられた秘訣は、「朝起きてすぐに暗記に取り組むなど、自分なりの学習リズムを確立して習慣化したこと」と話す。

税理士試験の実施は年1回。3年次に初めて受けた試験で4科目、翌年1科目に合格した。初志貫徹し、在学中に目標を達成した山下さんは、「やればできる」という自信が身についたと胸を張り、「税理士や公認会計士を目指す同じ学部の仲間の存在が大きかった。一緒に勉強し、時に励まし合った」と笑みをこぼす。

卒業後は税理士法人に就職する。「税理士は納税者に直接アプローチできる仕事。実務を通じて成長し、困っている人を助けてあげられる税理士になりたい」と目標を掲げる。

多摩桜の丘学園で相撲教室開催

体育会相撲部の部員らが、2月12日、都立多摩桜の丘学園（東京都多摩市）を訪問し、知的障害教育部門中学部の約80人を対象に相撲教室を行った。

相撲部と同学園の連携はコロナ禍前から行われており、生田キャンパスに生徒たちを招くなど、交流を深めてきた。

今回参加したのは、蒲田勝太監督、部員の内田龍志さん（商3）、エンフタイワン・エンフアムガランさん（商2）、齋藤凰士郎さん（経営1）。蒲田監督らは、四股の踏み方、蹲踞、摩手水といった土俵での作法を、手本を示しながら指導した。

生徒らを指導する蒲田監督と部員

学部長賞受賞者

※敬称略、カッコ内は学年

経営学部

◆特別賞
【文化芸術啓蒙活動】梅優斗（3）
【税理士試験合格】山下隼平（4）
【学生アニメ・マンガビジネスコンテスト最優秀賞】橋見龍（4）
【ちばぎん・はまぎん学生ビジコンSDGsアイアカウンティングコンペティション優秀賞】山口梨乃、松本潤佳、佐藤妃音、杉野響（以上3）
【国家公務員採用総合職試験合格】安藤洋介（4）
【神奈川産学チャレンジプログラム最優秀賞】頼末葉里、大槻優太、大用夏奈、小山裕太、西野瀧金子拓未、礒崎琴美、佐太郎、山崎都月美、植松大翔、永田志帆、堀川創栄、橋本大輝（以上3）
【ゴルフ部】福住修（4）
【相撲部】アリユンエルデネ・スプバット（4）、菊池健太、三井晃太、谷栩内陽岡（3）
【スピードスケート部】垣優斗（以上4）、笠原光太朗（3）、軍司一冴（2）、辻本楓芽（1）
【バレーボール部】甲斐會田倫太郎（4）
【バスケットボール部】瀬川怜奈（3）

商学部

【公認会計士試験合格】松田和喜、仲村琉清（以上4）、安竹伸晃、平江大雅（以上3）
【神奈川産学チャレンジプログラム最優秀賞】新井大樹、松田莉奈、臼居七海、北島海里、藤原珠央、大三川恵生、清水りな、高橋恋佳、長井花妃音、杉野響（以上3）
【国家公務員採用総合職試験合格】安藤洋介（4）、久保田祐輔（以上3）
【アカウンティングコンペティション最優秀賞】末葉里、大槻優太、大用夏奈、小山裕太、西野瀧金子拓未、礒崎琴美、佐太郎、山崎都月美、植松大翔、永田志帆、堀川創栄、橋本大輝（以上3）
【スキー部】牧桃（4）
【相撲部】アリユンエルデネ・スプバット（4）、菊池健太、三井晃太、谷栩内陽岡（3）
【バレーボール部】水野優斗（3）、永登（3）
【ローラースケート部】會田倫太郎（4）

ネットワーク情報学部

◆学部長賞
【国際大学対抗プログラミングコンテストアジア地区予選台中大会銀賞】関根光、橋本拓弥（以上4）、田村友希（3）
【国際大学対抗プログラミングコンテスト連続出場】橋本拓弥（4）
【わが町かわさき映像創作展優秀賞】宇佐美一誠、郷州蓮、小山真之介、佐野世弥、石川智大、井上海人（以上4）
【Progateハッカソン最優秀賞】小林千音郎、百百謙秀、飯島悠太、冨田心暖（以上2）
◆学部長奨励賞
【専大ベンチャービジネスコンテスト最優秀賞】長谷川絢音、松木凛太郎、百百謙秀、飯島悠太、冨田心暖（以上2）